

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2021年8月11日
【四半期会計期間】	第27期第2四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）
【会社名】	株式会社ハウスフリーダム
【英訳名】	HouseFreedom Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小島 賢二
【本店の所在の場所】	大阪府松原市阿保四丁目1番34号
【電話番号】	072-336-0503
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河辺 豊
【最寄りの連絡場所】	大阪府松原市阿保四丁目1番34号
【電話番号】	072-336-0503
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河辺 豊
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第2四半期 連結累計期間	第27期 第2四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自2020年1月1日 至2020年6月30日	自2021年1月1日 至2021年6月30日	自2020年1月1日 至2020年12月31日
売上高 (千円)	5,835,494	5,583,546	12,163,281
経常利益 (千円)	411,589	219,365	915,510
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	263,049	155,659	559,043
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	254,124	157,990	555,047
純資産額 (千円)	2,351,947	2,649,534	2,652,870
総資産額 (千円)	10,366,370	12,168,583	10,691,877
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	65.22	38.60	138.61
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.7	21.8	24.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	782,945	1,336,295	1,504,800
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	166,158	476,601	354,290
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	146,670	1,646,526	204,287
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,406,506	3,716,241	3,882,611

回次	第26期 第2四半期 連結会計期間	第27期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2020年4月1日 至2020年6月30日	自2021年4月1日 至2021年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	35.94	30.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当第2四半期連結会計期間において、株式会社ケアサービス友愛は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

ただし、今後、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合は、経済活動の停滞や悪化が想定され、消費者の住宅購入意欲の減退や金融収縮による資金調達環境の悪化等により、当社グループの事業及び業績に関するリスクが発生する可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体に持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあります。感染症拡大の防止策を講じ、ワクチン接種が進捗して、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、政府の各種政策効果と海外経済の改善により、持ち直していくことが期待されていますが、先行きにつきましては、感染の動向が内外経済に与える影響及び引き続き金融資本市場の変動を注視する必要があり、不透明な状況が続いております。

当社グループの属する不動産業界におきましては、継続する低金利環境を背景に、不動産需要は底堅く、不動産市況は堅調に推移しております。住宅需要につきましては、新設住宅着工戸数に一部持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって生じた雇用・所得環境に対する先行き懸念等もあり、依然として厳しい事業環境にあります。また、海外での木材需要の高まり等により国産木材・輸入木材の供給不足や価格高騰の影響が顕在化してきており、先行きに懸念が生じております。

このような事業環境の下、当社グループは、継続して中長期的な成長に向けた事業展開を推進し、関西、九州、中部エリアにおける既存事業の収益力向上及びエリア内における更なるシェア拡大と、新たな事業領域への進出を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、新築戸建分譲事業において、中部エリアでの販売は好調に推移しましたが、関西エリアの大規模分譲プロジェクトの販売がほぼ終了したことにより、売上高及び営業利益以下各段階利益につきましては、前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高5,583百万円（前年同四半期比4.3%減）、営業利益254百万円（前年同四半期比42.0%減）、経常利益219百万円（前年同四半期比46.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益155百万円（前年同四半期比40.8%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

不動産仲介事業

当社グループの中核事業と位置付けております不動産仲介事業におきましては、当社グループの地域密着戦略における要として、地域内情報の取得等他事業とのシナジー効果の最大化を目的に、関西、福岡及び中部エリアにおいて事業を展開いたしました。

この結果、当事業の売上高は808百万円（前年同四半期比8.1%減）、セグメント利益は136百万円（同34.6%減）となりました。

新築戸建分譲事業

新築戸建分譲事業におきましては、お客様ニーズにマッチした分譲住宅の供給を目標に事業を推進しております。当第2四半期連結累計期間につきましては、関西エリアの大規模分譲プロジェクトの販売が完売に近づいており、中部エリアでの販売は好調に推移しましたが、売上高、利益面共に前年同四半期を下回る結果となりました。

この結果、当事業の売上高は4,154百万円（前年同四半期比4.1%減）、セグメント利益は257百万円（同24.9%減）となりました。

建設請負事業

建設請負事業におきましては、注文住宅及びリフォームの請負事業を展開しております。当事業における売上高は468百万円（前年同四半期比4.6%増）、セグメント利益は45百万円（同82.0%増）となりました。

損害保険代理事業

損害保険代理事業におきましては、不動産関連サービスから派生する火災保険及び地震保険等の代理店業務を行っております。当事業における売上高は37百万円（前年同四半期比13.6%増）、セグメント利益は8百万円（同39.5%減）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業におきましては、関西圏を中心として主に住居用マンションやオフィスビルなどの賃貸不動産の仕入れ、賃貸及び販売に加え、小規模賃貸アパートの開発及び販売を行っております。当第2四半期連結累計期間において、賃貸不動産の保有棟数が増加しておりますが、これに伴った租税公課の負担も増加したことにより、当事業における売上高は114百万円（前年同四半期比16.1%増）、セグメント利益は31百万円（同32.7%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による資金の減少1,336百万円、投資活動による資金の減少476百万円、財務活動による資金の増加1,646百万円となり、資金は前連結会計年度末と比較して166百万円減少しました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末資金残高は3,716百万円（前年同四半期末残高3,406百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は1,336百万円（前年同四半期は782百万円の資金の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益223百万円、たな卸資産の増加1,225百万円、仕入債務の減少77百万円、法人税等の支払額196百万円、利息の支払額47百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は476百万円（前年同四半期は166百万円の資金の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出490百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は1,646百万円（前年同四半期は146百万円の資金の減少）となりました。これは主に、短期借入金の純増額1,037百万円、長期借入れによる収入1,342百万円、同借入の返済による支出648百万円等によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,000,000
計	13,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年8月11日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	4,110,000	4,110,000	福岡証券取引所 (Q-Board市場)	(注)
計	4,110,000	4,110,000	-	-

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、当社は単元株制度を採用しており、1単元株式数は100株であります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残高 (千円)
2021年4月1日～ 2021年6月30日	-	4,110,000	-	328,842	-	173,940

(5) 【大株主の状況】

2021年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
山西 みき子	大阪府富田林市	965,000	23.93
株式会社オーエフコーポレーション	大阪府松原市天美我堂2丁目275	781,000	19.36
V Tホールディングス株式会社	愛知県名古屋市中区錦3丁目10-32	556,300	13.79
小島 賢二	大阪府松原市	204,000	5.06
森光 哲也	福岡県福岡市東区	200,000	4.96
ハウスフリーダム従業員持株会	大阪府松原市阿保4-1-34	148,400	3.68
増田 直樹	大阪府羽曳野市	120,000	2.98
日新火災海上保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台2-3	100,000	2.48
若杉 精三郎	大分県別府市	60,000	1.49
軽本 勝	大阪府松原市	40,000	0.99
計	-	3,174,700	78.72

(注) 上記のほか、自己株式が76,860株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 76,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,032,900	40,329	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	4,110,000	-	-
総株主の議決権	-	40,329	-

【自己株式等】

2021年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の 割合(%)
株式会社ハウスフリーダム	大阪府松原市阿保 四丁目1番34号	76,800	-	76,800	1.87
計	-	76,800	-	76,800	1.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,904,394	3,736,764
受取手形及び売掛金	12,217	16,684
販売用不動産	1,227,595	1,048,978
仕掛販売用不動産	2,203,064	3,692,499
未成工事支出金	39,278	75,957
その他	233,786	226,339
貸倒引当金	661	787
流動資産合計	7,619,675	8,796,435
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,244,241	1,365,978
機械装置及び運搬具(純額)	26,238	24,417
工具、器具及び備品(純額)	12,561	10,103
土地	1,338,410	1,480,110
リース資産(純額)	1,905	40,974
建設仮勘定	83,181	93,071
有形固定資産合計	2,706,538	3,014,656
無形固定資産		
のれん	174,324	139,827
ソフトウェア	7,687	7,775
商標権	167	141
その他	235	235
無形固定資産合計	182,414	147,980
投資その他の資産		
投資有価証券	40,896	44,256
繰延税金資産	70,752	92,603
その他	69,348	67,905
貸倒引当金	3,587	3,487
投資その他の資産合計	177,409	201,277
固定資産合計	3,066,363	3,363,914
繰延資産	5,838	8,233
資産合計	10,691,877	12,168,583

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	566,871	428,336
短期借入金	2,312,970	3,350,512
1年内償還予定の社債	127,200	27,200
1年内返済予定の長期借入金	629,820	717,733
リース債務	1,318	8,773
未払法人税等	163,267	46,901
賞与引当金	121,116	81,258
製品保証引当金	25,434	23,784
その他	531,594	447,055
流動負債合計	4,479,593	5,131,557
固定負債		
社債	619,600	806,000
長期借入金	2,862,613	3,467,891
リース債務	546	32,328
資産除去債務	14,309	14,403
その他	62,344	66,867
固定負債合計	3,559,413	4,387,491
負債合計	8,039,007	9,519,049
純資産の部		
株主資本		
資本金	328,842	328,842
資本剰余金	173,940	173,940
利益剰余金	2,154,799	2,149,133
自己株式	32,246	32,246
株主資本合計	2,625,335	2,619,669
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,534	29,865
その他の包括利益累計額合計	27,534	29,865
純資産合計	2,652,870	2,649,534
負債純資産合計	10,691,877	12,168,583

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 1月 1日 至 2020年 6月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1月 1日 至 2021年 6月30日)
売上高	5,835,494	5,583,546
売上原価	3,960,428	3,846,473
売上総利益	1,875,065	1,737,072
販売費及び一般管理費	1,436,257	1,482,645
営業利益	438,807	254,427
営業外収益		
受取利息	28	32
受取配当金	988	986
受取手数料	12,653	10,904
その他	2,265	6,538
営業外収益合計	15,936	18,461
営業外費用		
支払利息	37,223	40,901
支払保証料	4,151	6,163
その他	1,780	6,458
営業外費用合計	43,155	53,522
経常利益	411,589	219,365
特別利益		
固定資産売却益	-	3,994
特別利益合計	-	3,994
特別損失		
固定資産除却損	167	-
特別損失合計	167	-
税金等調整前四半期純利益	411,421	223,360
法人税、住民税及び事業税	159,226	90,581
法人税等調整額	10,854	22,879
法人税等合計	148,372	67,701
四半期純利益	263,049	155,659
親会社株主に帰属する四半期純利益	263,049	155,659

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	263,049	155,659
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,924	2,331
その他の包括利益合計	8,924	2,331
四半期包括利益	254,124	157,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	254,124	157,990
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	411,421	223,360
減価償却費	40,086	40,837
のれん償却額	34,496	34,496
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,247	25
賞与引当金の増減額(は減少)	20,429	39,857
受取利息及び受取配当金	1,017	1,018
支払利息	37,223	40,901
固定資産売却損益(は益)	-	3,994
固定資産除却損	167	-
売上債権の増減額(は増加)	100,958	33,231
たな卸資産の増減額(は増加)	283,306	1,225,834
仕入債務の増減額(は減少)	32,528	77,171
その他	54,538	118,313
小計	909,470	1,093,336
利息及び配当金の受取額	1,017	1,018
利息の支払額	37,741	47,874
法人税等の支払額	89,800	196,102
営業活動によるキャッシュ・フロー	782,945	1,336,295
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	551	1,621
定期預金の払戻による収入	1,800	2,880
有形固定資産の取得による支出	163,996	490,438
有形固定資産の売却による収入	-	16,149
その他	3,411	3,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	166,158	476,601
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	97,220	1,037,542
長期借入れによる収入	757,000	1,342,040
長期借入金の返済による支出	980,975	648,848
社債の発行による収入	98,690	196,382
社債の償還による支出	13,600	113,600
配当金の支払額	100,764	160,927
その他	4,240	6,062
財務活動によるキャッシュ・フロー	146,670	1,646,526
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	470,116	166,370
現金及び現金同等物の期首残高	2,936,389	3,882,611
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,406,506	3,716,241

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社ケアサービス友愛は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(固定資産の保有目的の変更)

第1四半期連結会計期間において、固定資産の一部について、自社利用から販売目的へと保有目的を変更したことに伴い、建物及び構築物66,086千円及び土地55,575千円を、販売用不動産に振り替えております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
給与手当	517,358千円	523,708千円
賞与引当金繰入額	87,928	72,769
製品保証引当金繰入額	7,437	5,229

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
現金及び預金勘定	3,425,588千円	3,736,764千円
預入期間が3か月を超える定期預金	19,082	20,523
現金及び現金同等物	3,406,506	3,716,241

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年6月30日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月16日 定時株主総会	普通株式	100,828	25	2019年12月31日	2020年3月17日	利益剰余金

(注)1株あたり配当額には、記念配当5円が含まれております。

- (2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年3月19日 定時株主総会	普通株式	161,325	40	2020年12月31日	2021年3月22日	利益剰余金

- (2)基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						その他
	不動産 仲介事業	新築戸建 分譲事業	建設請負 事業	損害保険 代理事業	不動産 賃貸事業	計	
売上高							
外部顧客への売上高	879,959	4,331,234	447,775	43,353	98,271	5,800,593	34,900
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,109	-	12,640	-	648	15,397	-
計	882,068	4,331,234	460,415	43,353	98,919	5,815,991	34,900
セグメント利益又は セグメント損失()	208,997	342,361	25,170	13,485	46,140	636,154	1,139

(単位:千円)

	合計	調整額(注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
売上高			
外部顧客への売上高	5,835,494	-	5,835,494
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,397	(15,397)	-
計	5,850,892	(15,397)	5,835,494
セグメント利益又は セグメント損失()	635,015	(196,207)	438,807

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 196,207千円には、セグメント間取引消去 3,810千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 200,017千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産 仲介事業	新築戸建 分譲事業	建設請負 事業	損害保険 代理事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	808,835	4,154,801	468,331	37,463	114,114	5,583,546	-	5,583,546
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,593	-	109,890	-	-	113,483	(113,483)	-
計	812,428	4,154,801	578,221	37,463	114,114	5,697,030	(113,483)	5,583,546
セグメント利益又は セグメント損失()	136,760	257,000	45,808	8,154	31,068	478,791	(224,364)	254,427

- (注)1. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 224,364千円には、セグメント間取引消去 1,541千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 225,906千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する情報

(1) 報告セグメントの廃止

前連結会計年度において、当社の連結子会社である株式会社ケアサービスマ友愛が営む介護事業について、2020年10月末で事業を停止したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、「介護事業」セグメントを廃止しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(2) のれん償却費の各報告セグメントへの配分方法の見直し

前連結会計年度において、各報告セグメントごとの業績を実態に即してより適切に評価管理するため、のれん償却費のうち一部について、各報告セグメントへの配分方法を見直しております。

これに伴い、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、のれん償却費のうち一部について変更後の配分方法により作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	65円22銭	38円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	263,049	155,659
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	263,049	155,659
普通株式の期中平均株式数(株)	4,033,140	4,033,140

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年8月11日

株式会社ハウスフリーダム

取締役会 御中

三優監査法人
大阪事務所

指 定 社 員 公認会計士 鳥居 陽 印
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 米崎 直人 印
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスフリーダムの2021年1月1日から2021年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハウスフリーダム及び連結子会社の2021年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。